

御影堂：内部

堂の内部は、畳に座って参拝する外陣と内陣に分かれている。仏堂としては珍しく、内陣よりもこの外陣の方が圧倒的に広がっている。これは、全国から信者が集まる儀式の際に、できるだけ多くの参拝者を収容できるようにとの配慮からである。お堂を支えているのは外陣の中と外周に見える合計で 90 本の巨大な柱である。

内陣の奥の壁には、中央の祭壇の両側に歴代門首の絵が描かれた巻物が掛けられ、さらにその両側には、浄土真宗の中心的存在である阿弥陀如来の徳と輝きを記した巻物が掛けられている。壁面の両端には、幸野楳嶺（1844-1895）や望月玉泉（1834-1913）など京都の画家による蓮の花などの仏画が描かれている。